佐藤 玄々(朝山)

1888(明治21)–1963(昭和38)

巣鶏

1920（大正9）年の院展に出品された《巣鶏》には、いくつかの類作が認められます。いずれも雛を両脇に抱えた巣籠もりの姿で、底面にも親鶏と雛鶏の足が三対彫り込まれています。
また、荒い鑿痕を重ねるようにして羽根を表現しており、明快な白と赤、黄の顔料で彩色がなされています。この時期、奈良一刀彫の森川杜園に影響を受けた《鹿》なども多く制作しており、平安期の東北の仏像に見られるいわゆる「鉈彫」の影響などが指摘されています。

横井美惠子コレクション